

“新しい時代を迎えて”

広島工業大学同窓会会長 荒谷 壽一

同窓会の皆様におかれましては益々お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。また平素はなにかと同窓会活動に対し、御理解と御協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて今年度、本学を卒業されました新卒業生の皆様には心よりお祝い申し上げますとともに、社会人1年生として希望を持ってスタートを切っていただきたいと願っております。本年度の卒業生を加えると約4万8千名の方が同窓会員となります。工業系大学としては、一大勢力となっており、広工大なしにはローカル企業の発展は考えられません。中・四国経済圏の物づくりは広工大同窓会の皆様の努力と活躍で持続し発展し続けていると確信しています。

昨年2018年は「災」という字が選ばれました。台風、地震、豪雨等日本は災害の1年であったと思います。多くの方々が亡くなられ心からご冥福をお祈りすると共に、被災された方々の1日も早い復興を願っております。特に広島県は今まで考えられない広範囲な豪雨の影響により土砂災害が発生し110名以上の方が亡くなられました。災害は忘れたころにやって来るという言葉がありますが、最近では忘れる前に全国どの地区にでも毎年のように発生しています。

防災、減災、国土強靱化に向け、ハード・ソフト両面で国民の安心安全を維持する事が大切であると思います。そして我々企業の喫緊の課題が少子高齢化から発生する担い手確保であり、加えて生産性の向上を真剣に考えねばなりません。出生数が2016年、97万人、2017年、94万人、2018年、92万人と毎年減少しています。このような状況の中で ICT・IOT・AI・ロボットといった新たな技術革新の急速な進展とともにビジネススピードはますます加速化し、社会経済情勢も大きく変貌するものと思います。どの業種においても今後の10年が生産性向上に向けて生死をかける10年であると考えます。

更なる発展と成長を成し遂げるためには時代の潮流に柔軟かつ迅速に順応すると共に社会が求める新たな価値を連続的、継続的に創造し循環し続ける企業構造が必要となります。このような時代を乗り越えるには同窓会の横のつながりをしっかりとしたものにして、大学と同窓会が手を結び、今まで以上の絆で次の時代を切り拓きたいと思っています。

本年4月末で平成も終わり新しい時代となります。今後増々、大学、同窓会の存在感が増すとともに、その価値が広がるものと確信します。広工大卒業生としての誇りと自覚を持って進んでいただきたいと願っています。

新時代を迎え、私自身も元気で長生きをして10年後、20年後がどのよう

な時代になっているのか、しっかりこの目で見てやるぞと思っています。

広工大なくして同窓会なし、同窓会なくして広工大なし。大学と同窓会とお互いに力を合わせて地域に密着した、地域から期待される広島工業大学として力強く羽ばたこうではありませんか。

同窓会も50周年を経ましたが、次の60年そして100年と歴史を重ねる事で結束を強める事が必要です。1人1人の卒業生が地域支部、県支部、職場支部、学科独自の会に出席する事で、力を発揮してもらいたい。是非多数の方々の出席をよろしくお願い申し上げます。それぞれの支部長の皆様には支部の集まりに頭を悩ませておられる事と思いますが、「継続は力なり」です。どうぞ同窓会の各支部の活性化について今まで以上に真剣に考えていただき、若いメンバーにつないでいただきたいと願っています。

この同窓会誌がお手元に届くころには新しい元号が決定していることと思います。どのような元号になるのか楽しみにしています。時代が変わる今こそ同窓会として一皮むけた動きになる契機ととらえ、支部の組織のあり方を含めて集まりやすい支部にしてゆきたいと思います。

結びに会員の皆様の御活躍と御健勝を心より祈念申し上げ、今後共同窓会に対し絶大なる御支援と御協力を重ねてお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。